

本日は、国際ロータリーの現況につきまして、お話をさせていただきます。

田中作次 RI 会長の考えにつきましては、ロータリーの友で毎号紹介されておりますので、もう既にご高覧のことかと思いますが、私どもは日頃、自らの職業奉仕、また社会奉仕に4つのテストやロータリーの綱領を心がけながら、実践をしているわけでございますが、この事は取りもなおさず、将来に向かって毎日奉仕の実践活動という事に通ずるのではないかと思うわけでございます。

これから国際ロータリーの現況と、それから当面の課題についてお話をさせていただきます。

皆様、お分かりのようでなかなかご理解頂いてないのは、国際ロータリーの組織運営でございます。国際ロータリーの本部はご高承のように、アメリカ、イリノイ州のエヴァンストンにございます。エヴァンストンはシカゴ市の隣接都市でございます。この本部におきましては、国際ロータリーの運営は、本年度は田中作次 RI 会長の元で、会長エレクト17名の理事会メンバーによって行われております。日本からは理事として、RI 第 2780 地区神奈川、松宮剛理事がご参加をされてるわけでございます。

国際ロータリーの理事の任期は2年でございます。松宮理事は現在1年目の理事としてご活躍でございますし、来年度からは、第1ゾーン エレクト RI 第 2770 地区パストガバナー北 清治が理事に就任をなさいます。

RI は、国際ロータリーの奉仕活動を推進するために、多くの資金を必要と致します。そのため国際ロータリーの組織とは別のロータリー財団を法人として設立しております。

1983年イリノイ州の非営利活動法人として、国際ロータリーのロータリー財団の名称で設立され、今日に至っております。

これは主として、寄付金の扱いについてのアメリカにおける税法上の取扱いが一番大きな理由で、財団が別の法人になっているという事でございます。

ロータリー財団の運営につきましては、13名の管理委員、トラスティーによって行われています。RI 第 2780 地区のパストガバ

ナーで国際ロータリーの理事をお務めでございました小沢一彦様は、4年間ロータリー財団の運営にあたっておられた方でございます。

13名のロータリー財団の管理委員の内の、4名は国際ロータリーの元会長が就任するという事にロータリーの細則で定められております。大変この管理委員は重責を負っておられて、また、大変多忙な要職でございます。

ロータリー財団の管理委員の任期は、4年でございます。国際ロータリーとロータリー財団とは重要事項については、緊密な連携を取る事が国際ロータリーの細則で要求されております。国際ロータリーとロータリー財団の重要な業務を支える事務局でございますが昨年度より10年勤めました、エドウィン・フタ事務総長に替りジョン・ヒューコ事務総長が就任され600人の職員が働いております。

海外事務局は日本、スイス、韓国、インド、オーストラリア、ブラジル、アルゼンチンの7ヶ所でございます。

海外事務局は、200人以上の職員がおります。日本事務局は本年6月着住。小林宏明所長以下、12名の職員が日本事務局ではついており、私共、日本のロータリアンの仕事をサポートすること、また、国際ロータリーの本部の伝達事項等に誤りがないように期すという事で働いてくれるわけでございます。

国際ロータリーの組織運営の現況をかいつまんて申し上げますと、以上の通りでございます。ここで、当面の課題について申し上げます。

第一番目にはやはり、組織をポール・ハリスが4人で始めた組織が、現在の規模にまでなっているわけでございますが、世界的なロータリーに対するニーズを収束するためには、どうしても大きな組織が必然的に必要になってきております。

会員増強につきまして、現在では、全世界のロータリアンの数が9月末では、122万人を維持してます。私のガバナ一年度、2001～2002年クロバレルクエスト会員増強活動を展開しました。

会員数150万人増強を目標に展開しました。時には55,000人増強し、4.6%増強しました。その会員数と本年度は同じであります。日本の場合不況から脱出できない低迷状態が続いておりますので、皆様の御尽力にも関わらず、89,000人に1,000人程減少致しました。その為現在では、世界のロータリアンの10%は日本かと言われてた永年の割合が崩れまして、この9月末では7%という割合に落ち込んでおります。

田中作次RI会長エレクトは先の国際大会に於いて、会員増強について「会員増強は会員数だけを目標とすべきではありません。会員数を増やす為だけに新入会員を入れてもロータリーは強くなりません。ただ入会できる人ではなく、ロータリアンとなれる人を入会させて始めてロータリーは強くなれるのです。会員を増やしたいと云う理由で入会をお願いする事はできません。ロータリーが入会に相応しい団体であり、ロータリーのお陰で幸せになれる事を説明しなければなりません。勧誘を行うのは入会者の為でもあるのです。入会を通じて自分と同じ幸せを味わってもらいたいと思います。」

と述べられたそうです、この事は正にロータリーに於ける会員増強のあり方を訴えられているのではないのでしょうか。

また、モンティ・J・オーディRI増強委員長は、「国際ロータリーはロータリーの会員増強と維持における課題が文化圏によって異なり、型にはまった解決方法はうまくいかない事を充分理解している。RI理事会は去る9月新たな3年計画を承認した。この計画ではガバナーとその他のロータリアンが、それぞれの地域に特化した会員増強・維持計画・行動案を立案実行する事が可能になる。2015年までの3年間、毎年3%ずつの会員を130万とすることを目標とした」。と述べ、型にはまらず柔軟で地域にあった無理のない増強を提唱しています。

次にロータリー財団の問題についてご報告をさせていただきますと思います。

国際ロータリーでロータリー財団の年次寄付、一人100ドルという目標を掲げております。もうご高承の事かと思いますが、ロ

一タリ一財団の寄付の種類を大別致しますと、年次寄付、恒久基金寄付、それから、使途指定寄付と大きくわけますと、3つにわけられるわけでございます。

そうして年次寄付というのは、人の制限のないいわゆる無条件の寄付でございます。シェアードシステムを通じて、3年後に、我々の寄付が3年後、我が第2790地区に活用されるわけでございますが、この無条件寄付でございます年次寄付を、一人100ドル目標を掲げております。